

Jolly
**Phonics
&
Grammar**

保護者/教師用ガイドブック

Giving a flying start



Jolly
**Phonics
&
Grammar**

読み書きの学習ステージは大きく次の2つに分けられます。

フォニックス・読み書きの基礎となる力をつけるステージです

グラマー・よりよいコミュニケーションのための幅広いスキルを習得します

ジョリーフォニックスは、小学校低学年の段階で、これら2つのステージを余すところなく楽しみながら指導していくことができます。

まず1つめのフォニックスのステージでは、英語の「文字（綴り）と音」の関係を楽しく、多感覚を使いながら学んでいきます。この段階で、この「文字（綴り）の音」を使った読み書きの方法も、あわせて身につけていきます。

次に2つめのグラマーのステージでは、品詞、綴り、それから句読点などの補助符号を含めた英語の構造について学んでいきます。子どもたちは正確に、そして適切に表現する方法を身につけていきます。

このガイドブックには保護者の方や先生方へのアドバイスが満載です。*Jolly Phonics*の背景にある理念の解説も記載されていますので、指導の際に良い結果へとつなげていただけたと思います。

当ガイドブックの後半には *Jolly Phonics* 教材についてのガイドも記載されています。

* 印の記載されたものは、ご家庭でのご利用に適した教材となっています。

フォニックス



Jolly Phonics は「シンセティック・フォニックス」の指導法を全面的に採用しています。この指導法では、まず綴りの音そのものの指導から入り、その後子どもたちが自分の力でそれらの音を結合（シンセサイズ）して単語を読んでいくことができるよう指導していきます。

読み書きのための5つの基本技能とは

1. 文字（綴り）の音を覚える
2. 文字の形を覚える
3. ブレンディング
4. 単語の中にある音を識別する
5. ひっかけ単語を正しくつづる



1. 「文字（綴り）の音」を覚える

Jolly Phonics では、26 個のアルファベットのみでなく、英語の主要な音 42 種類のすべてを学習します。これらの音は 6 つずつ 7 つのグループに分けられています。この 42 種類の「文字（綴り）の音」には *ee* や *or* のように二つの文字で表記される *digraph*（ダイグラフ）と呼ばれるものも含まれており、更にダイグラフの中には一つの表記で二種類の音を表わすものもあります。例えば *book* と *moon* の中の *oo* や、*that* や *three* の中の *th* がそれにあたるのですが、こういった二種類の音を区別するために、Jolly Phonics では下記のように書体で区別するようになっているのです。

- Group 1: s, a, t, i, p, n
Group 2: c k, e, h, r, m, d
Group 3: g, o, u, l, f, b
Group 4: ai, j, oa, ie, ee, or
Group 5: z, w, ng, v, oo, oo
Group 6: y, x, ch, sh, th, th
Group 7: qu, ou, oi, ue, er, ar



この「文字（綴り）の音」には子どもたちにとって覚えやすい固有のアクション（動作）がそれぞれ用意されています。例えば /s/ の音では散歩に出かけてヘビ（snake）に出会うというお話があり、手をヘビのように動かしながら /sss/ の音を発音するのです。こうやって「お話し」「アクション」「発音」を効果的に組み合わせ、1 日 1 音の指導を進めていきます。子どもたちに定着するに従い、このアクションは徐々に必要なくなっていくます。すべての「文字（綴り）の音」ごとのアクションは当ガイドの 8 ページ目をご覧ください。

文字の「名前」ではなく文字の「音」で学ぶことも重要なポイントです。例えば *a* という文字は、/ai/（エイ）という「文字の名前」ではなく、/a/（ア）という「文字の音」で呼ばれます。同様に *n* は /en/（エヌ）でなく /n/（ン）となります。この点を徹底することで、後にブレンディング（文字の音をつなぎ合わせて一つの単語として読むこと）のスキルへとつなげていくことができるのです。それぞれの「文字の名前」は後の段階で導入します。「文字（綴り）の音」の導入順もアルファベット順とは異なります。第一グループの 6 音（s, a, t, i, p, n）は 3 文字単語をより多く作れる順に選定されていて、また *b* と *d* は混乱を避けるため別のグループとなるようにするなど、さまざまな点に配慮してあるのです。

1 つの音に 2 通り以上の綴り方のあるものであっても、まずは基本の綴り方のみを学習していきます。例えば /ai/ (エイ) という音の場合でみてみましょう。まずは基本の 42 の「文字 (綴り) の音」の学習の中で ai の綴りを学習します。その 42 の基本が終わった後に初めて同音異綴りの指導に入り、そこで a_e (gate など) や ay (day など) の綴りを学んでいくのです。Jolly Phonics Word Book などをご参照ください。

2. 文字の形を覚える

鉛筆の正しい持ち方を指導することとても重要なことです。



右利き、左利きに関係なく
握り方は同じです。

鉛筆は必ず親指と人差し指、中指でしっかりと持つ「三本握り」で持つよう指導しましょう。子どもたちが間違った鉛筆の持ち方を最初に覚えてしまうと、後々矯正することは難しくなります。

子どもたちはそれぞれの文字を正しい筆順で書けるようにしなくてはなりません。c という文字は学習の早期に導入されるのですが、これは例えば d の左半分の部分に見られるように、c の文字が他の文字の基本となる形をしているからです。筆順の間違いや正しい文字の例をいくつか挙げておきます。

- ・ o : 筆順は反時計回りであって、時計回りではない
- ・ d : 文字の書き始めは一番上ではなく、真ん中から始まる
- ・ m, n : 最初に左上から下に書き下ろさなければいけない

Jolly Phonics DVD や My First Letter Sounds, Jolly Stories や Finger Phonics などの教材でそれぞれの文字の正しい書き方が紹介されています。ノートの下線の位置から書き始める文字は一つもないということを、子どもたちにぜひ教えてあげてください。

Jolly Phonics では 2 種類の書体を用意しています。イギリス圏で主流の半筆記体と、北米で主流のブロック体です。普段目にすることが多いのはブロック体ですが、後々筆記体へと移行しやすいのは半筆記体です。半筆記体 (筆記体) はすらすら書くことにもつながり、また単語として一塊で書くことになるため綴りを覚えるときに役立つというメリットもあります。

3. ブレンディング

ブレンディングとは、単語に含まれる「文字（綴り）の音」を一つずつ発音し、それらの音を結合させて単語を発音するスキルのこと



で、*d-o-g* の個別の音を結合して *dog* と読む方法がそれにあたります。その方法をどの子も学ぶ必要があり、練習することで必ずどんどん上達していきます。最初は大人が「文字（綴り）の音」を一つずつ発音し、子どもたちがそれを単語として聞き取れるか試してみましょう。解答として単語を読んであげても良いでしょう。子どもによっては時間がかかる子もいます。「文字（綴り）の音」をすばやく発音しないと単語には聞こえません。*b-u-s*, *t-o-p*, *c-a-t*, *h-e-n* などの単語から始めて、少しずつ何度も練習させましょう。日本語話者には母音を強めに発音するとよいでしょう。*The Phonics Handbook* や *Jolly Phonics Word Book* にブレンディングに適した単語が一覧で掲載されていますのでご利用ください。

前述のように *sh* のように二つの文字で一つの音が作られているもの（*digraphs* ダイグラフ）もあります。これらは一文字ずつ（例えば *s-h*）発音するのではなく、必ずダイグラフで一音（例えば *sh*）として発音しなければなりません。練習によって、単語の中のダイグラフを一つの音として捉え、ブレンディングすることができるようになります。*rain* は *r-a-i-n* でなく *r-ai-n*、*feet* は *f-e-e-t* でなく *f-ee-t* と捉えられるようになるのです。はじめは難しく、練習も必要です。*The Jolly Phonics Regular Word Blending Cards* などを使い、スキルを向上させましょう。

もう一つ、*st* のような子音の結合音と *sh* のようなダイグラフの違いを意識すると教え方が楽になります。子音の結合音 *st* では */s/* と */t/* という音が個別に聞き取れますが、ダイグラフでは個別の音は聞き取れません。例えば同じ *sh* の綴りを含む *mishap* (*/m-i-s-h-a-p/* 不幸な出来事) と *midship* (*/m-i-d-sh-i-p/* 船の中央部) ですが、前者の *mishap* では */s/* と */h/* の二つの音が聞こえ、後者の *midship* では */sh/* が別の一音として聞こえるのが分かります。こういった子音の結合音が含まれている単語を読む際には *f-l-a-g* というように個別の音単位で読むのではなく、*fl-a-g* というように結合音単位で読むよう徐々に指導していきましょう。これを続けると読む時にすらすらと読めるようになっていきます。

英単語には *said* や *was*、*one* のようにブレンディングによって読むことのできない不規則なものがあります。しかも残念ながら、これらの多くは使用頻度が高い単語なのです。こうした単語の不規則部分は暗記するしかなく、*Jolly Phonics* ではこれらを “*tricky words*”（ひっかけ単語）と呼んでいます。

4. 単語の中にある音を識別する



単語をどう綴ればいいのかを知る一番簡単な方法は、その単語の中の音にしっかりと耳を傾けることです。この方法はセグメンティングと呼ばれ、ちょうどブレンディングと逆のことをすることになります。

まずは単語の一番初めの音を聞き取らせませす。I-Spy（こんなものが見えるよ）のようなゲームを使うとよいでしょう。それができたら次は一番終わりの音を聞き取らせませす。最初と最後の音に挟まれた間の音は一番聞き取りにくいのです。

最初は *cat* や *hot* のようなわかりやすい三文字三音単語から始めましょう。単語を発音しながら、その音に合わせてトントントンと三回拍子を打つとよいでしょう。その拍子に合わせてそれぞれの音を発音します。ダイグラフには注意してください。例えば *fish* という単語は四文字ですが、音は /f-i-sh/ と 3 つしかありません。

ライミング (*cat* や *hat* のように同じ音で終わる単語 = 韻を踏む) ゲームや詩、*Jolly Songs* も単語中の音を聞き取る力を養うのに役立ちます。他にも次のようなゲームがあります。

- a) 音の足し算: *ink* (インク) の前に *p* の音を付け加えたら、何になる? 答えは *pink* (ピンク)。他にも、*m + ice = mice*、*b + us = bus* などなど。
- b) 音の引き算: *pink* (ピンク) から *p* の音を取り除いたら、何になる? 答えは *ink* (インク)。他にも、*f-lap*、*s-lip*、*c-rib*、*d-rag*、*p-ant*、*m-end*、*s-top*、*b-end*、*s-t-rip* などがあります。

5. Spelling the tricky words



ひっかけ単語の綴りを覚えるにはいろいろな方法があります。

- 1) 見て、隠して、書いて、チェック。まず、単語のどの部分がひっかけなのかを見ます。次に、その単語の綴りの音を口に出しながら宙に書かせてみます。そして、単語を隠して正しく書けるか試します。最後に、答え合わせをします。
- 2) 音の通りに発音する。単語のそれぞれの「文字 (綴り) の音」の通りに単語を発音してみる方法です。例えば、*was* (発音はウォズ: 最後が有声音) という単語は *mass* と同じような発音の *wass* (ワス)、また *Monday* は *M-on-day* (マンディではなくム・オン・ディ) の発音を口に出して憶えます。
- 3) 語呂合わせを利用する。例えば *laugh* (笑う) という単語なら *Laugh At Ugly Goat's Hair* (醜いやぎの毛を笑おう) の頭文字を使って憶える方法です。
- 4) 筆記体 (半筆記体) でつなげて書くことも、綴りを覚えることにつながります。

Decodable Storybooks (自分で読める本)

「文字（綴り）の音」を覚え始めた子どもたちは、今度は単語の中からその音を探し出すようになります。そしてブレンディングのスキルを使って単語として読むことを学んでいきます。学習済みの「文字（綴り）の音」のみを使った簡単な単語のみで作られたお話の本を使うのが理想的です。そういった本を「Decodable Storybooks (自分で解読できるお話しの本)」と呼んでいます。Jolly Readers がその「Decodable Books」なのです。



読むことが難なくできるようになってきたら、次に必要なのは読解力と語彙でしょう。子どもたちが読んだお話についていろいろと質問してみましょう。そうすることで読解力や語彙が身についていきます。（読ませっぱなしは厳禁です。）

フォニックスの役割

第三者による調査では、一年間の英語教育を受けた子どもたちの読む力は、Jolly Phonics を使って指導した場合、平均よりも 12 ヶ月分先に進んだ力がついたとの結果が示されています。また、書く力については、更にそれよりも差が大きい結果が出ています。加えて、子どもたちの家庭環境や母語にかかわらず、すべての子どもたちに高い効果を示し、なおかつ同年代で女子よりも能力がやや劣りがちな男子も女子のレベルと同様にまで伸びていることも分かってきています。

Jolly Phonics について

Jolly Phonics はイギリスの Lowestoft (ローストフト) にある Woods Loke (ウッズローク) 小学校で教師を務めていた Sue Lloyd (スー・ロイド) と Sara Wernham (セーラ・ワーナム) によって開発された教材群です。ジョリーラーニング社は 1987 年創立の英国の民間出版社です。



アクション

(文字の間にコンマがあるものは1つずつ、ないものは音をつなげて発音する。)

s ヘビが s 字でくねくね逃げていくように手を動かして、s~~~~
a 肘から上に登ってくるアリを手で払いのけるように、a, a, a
t テニスのラリーに合わせるように首を左右に振りながら、t, t, t
i 白ネズミがインクに染まって「いやだな、i, i, i」髭を外側に引っ張るように
p ろうそくに見立てた指を1本立てて、息で吹き消そう! p, p, p
n 晴れた空飛ぶ小型の飛行機のように手を広げて、エンジン音のように、n~~~~~



ck フラメンコダンサーのように両手を上に。カスタネットを鳴らします ck, ck, ck
e ボウルに卵を割り入れるように、egg (卵) の最初の音は、e, e, e
h 走ったばかりの激しい呼吸を感じるように、顔の前に手をかざして、h, h, h
r 毛布を啜えた子犬が、取られないように頭を振りながら、r~~~~~
m キッチンからはいい匂い! お腹をさすって、m~~~~~ お腹が空いたね!
d おもちゃの太鼓を叩きながら行進。明るく元気に、d, d, d

g 洗面台にたまった水が渦を巻いて流れるように、g, g, g と手を回す
o 部屋の電気のスイッチを指を伸ばしてついたり消したり、o, o, o
u 買ってもらった新しい傘を開く動作で、あ、あ、雨だ! u, u, u
l 大きな大きなべろべろキャンディー。舌を出して舐めちゃおう、l~~~~~
f 魚の形の浮袋。上下から手で押さえると空気が漏れる、f~~~~~
b バットを持って、ボールを打つよ。大きく空振り、b, b, b



ai 聞こえにくいな。耳に手を添え、ちょっと無作法に「ai, ai, ai」と聞いてみる
j お皿の上で震える大きなゼリーのように、全身を震わせて、j, j, j
oa ヤギが木の下敷きに! 手を口にかざして、手をややすぼめながら、oa, oa, oa
ie 水兵さんの敬礼は、気をつけ! 右手を頭につけて、ie, ie, ie
ee or 口バの鳴き声、真似してみよう! 耳を上げ下げ、ee-or, ee-or



z 花粉を集める大きなミツバチ。手を体の横にちょっと開いて、z~~~~~
w 唇尖らせ、両手を口の前下方に上向きで出して、w, w, w と息を吹く!
ng 重いバーベルを肩から上に持ち上げるように、ng, ng, ng
y 八百屋のおじさんの車を運転するようにハンドルを持って、v~~~~~
oo, oo カッコウ時計の動きのように、後ろに前にと動きながら、oo, oo, oo, oo

y スプーンでゆっくりすくってヨーグルトを食べるように、y, y, y
x カメラを構えてシャッターを押しながら、x, x, x
ch 肘を曲げて、腕を機関車の車輪のように前後に動かし、ch, ch, ch
sh 人差し指を唇の前に立てて、静かにさせよう、sh, sh, sh
th, th 舌をちょっと出してからかいます、th, th, th (有声音)
th, th, th 舌を大きく出して、もっと強烈に、th, th, th (無声音)



qu カモのくちばしを手で真似て、開いた状態から閉じながら、qu, qu, qu
ou 縫いの針に見立てた人差し指で親指を刺すようにしながら、ou, ou, ou
oi メガホンのように口の前に手を当て、他の船に呼びかけるように、oi, oi, oi
ue マジシャンのように指さして「あなた、君」と呼ぶように、ue, ue, ue
er 体の前で左右の手を電動ミキサーに見立てて回し、er, er, er
ar お医者さんで喉の検診をするように口を開けて、ar, ar, ar (イギリス英語)
ar アシカのように両手の甲を体の前で打ち合わせ、ar, ar, ar (アメリカ英語)



グラマー

Jolly Phonics ではフォニックスの段階は（英語圏で）小学校での最初の 1 年分の内容をカバーします。その後、グラマー1 から 6 まで 1 年ずつ 6 年間を通して文法（補助符号の指導も含む）と綴りの指導を継続していくこととなります。

指導は能動的で且つ多感覚を重視しています。色分け（モンテッソーリ教育で使用されているものに準拠しています）や品詞ごとのアクションを効果的に使い、既習のフォニックスの知識を復習・定着させつつ、さらに学習を進めていきます。文法、補助符号、綴りの指導を毎週 2 回ずつ行うペース分をカバーしています。

グラマーでは大きく分けて「文法（補助符号の指導も含む）」「綴り」の 2 つの分野に分けられます。

1. 文法



「文法」という言葉の定義は広く、品詞はもちろんのこと、句読点などの補助符号といったような言語の構造に関する部分から、比較級・最上級や同音異義語といったような単語の意味や使い方に関する部分まですべてが対象となります。グラマーでの指導内容を簡単に見てみましょう。

大文字：フォニックスの学習段階の中では、主要な「文字（綴り）の音」の学習が終わった時点から徐々に大文字の読み書き指導が始まります。この大文字の学習は、アルファベット順の学習と並行して、グラマー1 の中で繰り返し復習し、しっかりと定着させていきます。



アルファベット、辞書、類義語辞典：文字の名前とアルファベット順を学ぶことで辞書が使えるようになります。グラマー1, 2 では辞書を使う技能を繰り返し学んでいきます。これにより単語をアルファベット順に並べ、辞書を使い、綴りを確認したり意味を調べたりすることができるようになっていきます。またこの力をつけることで、類義語辞典を使って同義語（*shout* と *yell* などといった意味の似た単語）や反義語（*huge* に対する *tiny* などといった意味が反対の単語）を調べる技能を身につけることにもつながっていきます。こうしたことを通じてどんどんと語彙を増やすことにもつながります。



名詞： グラマー1の最初の段階から、子どもたちは一般名詞（例えば *cat* など）と固有名詞（例えば人の名前 *John* など）の違いを学習します。この違いを理解することはグラマーの学習の中では重要で、これにより固有名詞の最初の文字は常に大文字で書くことができるようになっていきます。

後の学習段階（*Grammar 3, 4*）で集合名詞、所有格名詞、具象名詞、抽象名詞を学習し、更に *Grammar 6* では可算名詞、不可算名詞という分類があることや（*gardening* や *skiing* などのように）動詞から作られる名詞（いわゆる動名詞）があるということも学んでいきます。



動詞： 動詞が現在、過去、未来のそれぞれで行われるということは、最初の段階から指導されていきます。*Grammar 1, 2* では単純時制（*I play, I played, I will play* など）を繰り返して学び、*Grammar 3* では進行形（*I am playing, I was playing, I will be playing* など）を導入します。*Grammar 5* に入ると完了形（*I have played, I had played, I will have played* など）に進みます。この段階で更に、目的語を伴う他動詞と、伴わない自動詞を学びます。*Grammar 6* では能動態と受動態の文章でどのように動詞は形を変えるのか、助動詞の場合はどうなるのか、命令形ではどうなるのか、などといった点に注目していきます。

be 動詞は重要で、様々な文章で広く使われており、また進行時制でも使われます。しかし、その活用は不規則です。*Grammar 3* で進行形（例えば *I am walking* など）を学ぶ前の段階の *Grammar 2* で指導することとなります。



その他の品詞： 代名詞、形容詞、副詞は *Grammar 1* から学習します。*Grammar 2* では更に接続詞、前置詞を学び、これらの品詞は *Grammar 6* まで継続して復習していきます。中学年では *bigger, biggest* などといった比較級や最上級についても集中して学んでいきます。



複数形： 単語を複数形にするには、一般的には語尾に *s* をつけたり（*cat-cats*）*es* をつけたり（*dish-dishes*）します。これらは *Grammar 1* から学習しますが、次第に難しいレベルのものへと発展させていきます。例えば不規則に変化する *mice*（*mouse* の複数形）や *children*（*child* の複数形）、単語の末尾が *y*（*tray-trays, puppy-puppies*）、*o*（*potato-potatoes, piano-pianos*）、*f* や *fe*（*roof-roofs, leaf-leaves, knife-knives*）、*us*（*cactus-cacti, cactus-cactuses*）といったものも学んでい

きます。



文と補助符号： *Grammar 1* の早い段階から「大文字で始まりピリオドで終わる」という文の一番の基本的な作りを学んでいきます。またピリオド以外の補助符号についての指導も徐々に行われ、引用符「"」、疑問符「?」（以上 *Grammar 1* で学習）、コンマ「,」、感嘆符「!」、アポストロフィ「'」（以上 *Grammar 2* で学習）、ハイフン「-」（以上 *Grammar 3* で学習）、丸括弧「()」、コロン「:」、セミコロン「;」（以上 *Grammar 5, 6* で学習）へと進んでいきます。

更に *Grammar 3* 以降では文章の構造についての学習も始まります。文の中の目的語をどうやって識別するか、文章を作る上で句や節をいかに効果的に使っていくか、などといったことを学んでいきます。また、文を段落に組み立てていく方法（*Grammar 3*）を学び、そこから「つなぎ合わせる」単語を使いながらいくつかの考えを滑らかに連結させて文章を組み立てる（*Grammar 6*）よう促しながら、より深い学習へと進めていきます。



校正： 綴りや補助符号を正しく使うためには、自分で書いた文章を誤りがないか確認し、誤りがあれば訂正していく力をつけることが重要となります。こういった校正の技能は、*Grammar 2* の段階で初めて登場します。その後 *Grammar 4* では、文法的な整合性や一つの単語を変更することが文全体に与える影響などといったことを学びながら、より高度な校正技能の学習へとつなげていきます。



同音異義語と同形異義語： 同音異義語は音が同じで綴りや意味が異なる単語のことで、例えば *there* と *their* と *they're*、*to* と *two* と *too* のようなものを指します。一方、同形異義語は同じ綴りで意味が異なる単語のことで、例えば同じ *fly* という単語でも *The birds fly away.* という文章と *There's a fly in my soup.* という文章では、前者は「飛ぶ」、後者は「ハエ」というまったく異なった意味の単語として使われていることがわかんと思います。この *fly* が同形異義語です。同音異義語は *Grammar 4* を中心として *Grammar* 全般で学習しますが、同形異義語は *Grammar 5* で学習します。



2. 綴り

さまざまな種類の綴りの概念やパターンを学びます。これにより、子どもたちは綴りの知識をより強固なものとして拡張していくことができます。そうして英語の綴りのルールの枠組みを理解していくことにつなげていくのです。毎週の綴りの授業では、学習対象となる綴りのリストが提示され、聞いた単語や文章を書き取る練習も行われていくこととなります。

同音異綴り：基本の 42 の「文字（綴り）の音」を学んだら、次はさまざまな母音の同音異綴りを学んでいきます。

基本の綴り	同音異綴り
ai (rain).....	a-e (gate)、 ay (day)
ee (bee)	e-e (these)、 ea (leaf)
ie (tie)	i-e (time)、 igh (high)、 y (fly)
oa (boat).....	o-e (bone)、 ow (slow)
ue (cue).....	u-e (cube)、 ew (few)
or (英 fork) o (米) (fox) *	al (talk)、 au (haul)、 aw (saw)
ou (loud)	ow (cow)
oi (boil).....	oy (boy)
er (fern)	ir (bird)、 ur (turn)



* 日本で一般的に使用されている IPA (International Phonetic Alphabet) ではまた別の定義となります。

ow の発音は *slow* の ow のものと *cow* の ow のもの、どちらもあります。

ue、u_e、ew の綴りは、いずれも基本の /ue/ の発音なのですが、別の音で発音されることがあります。その例を挙げてみましょう。

- *cue, cube, few*
必ず基本の /ue/ の音で発音されます。
- *due, duke, new*
イギリス英語では必ず基本の /ue/ の音で発音されます。
アメリカ英語では必ず基本の長母音の /oo/ の音で発音されます。
- *blue, flute, crew*
必ず基本の長母音の /oo/ の音で発音されます。

こういった同音異綴りの指導はフォニックスの段階から始まり、*Grammar 1* でも継続して指導していくことになります。



末尾が y で終わる単語： *funny* や *happy* などのように /ee/ の音で終わる単語は一般的に y の綴りで終わるものが多いと、子どもたちは学びます。このルールもフォニックスの段階 (*Pupil Book 2*) で指導され、*Grammar 1* でも継続して指導していきます。



子音の重ね合わせ： 短い単語の中のアクセントのついた短母音の後に音節がつながるとき、その間の子音は重ね合わせるというルールがあります。 *fatter*、*bedding*、*hilly*、*hottest*、*button* などがその例です。それ以外の母音の後では子音は重なりません。 *sailor*、*leaflet*、*silent*、*hotel*、*booking*、*sooner* などがその例です。フォニックスの段階 (*Pupil Book 2*) で指導されたこのルールを使うには短母音を正確に見つけ出す必要があります。 *Grammar 1* でその練習を継続します。



黙字： *Grammar 2* で初めて登場する黙字。 *lamb* の *b*、*wrist* の *w*、*knight* の *k* のように読まない綴りです。読まないけれども書かなくてははいけないということをしかりと指導します。



ソフト c とソフト g： *Grammar 2* では *c* と *g* の別の読み方を学びます。 *c* の綴りは *e* や *i* の直前にある場合 (*ice*、*city*) や、単語の真ん中に *y* の文字がある場合 (*cycle*)、/s/ という柔らかな音として発音されます。同じような条件下で *g* の綴りは /j/ という柔らかな音 (*gem*、*magic*、*gym*) として発音されます。また、これとは別に /f/ の同音異綴りとして *ph* (*photo* など) の綴りがあり、これはフォニックスの段階 (*Pupil Book 3*) で学びますが、この部分の復習も行います。



これ以外の綴り： 英語にはこれら以外の綴りのルールが数多くあり、*Grammar 2* 以降で随時指導していきます。例えば、*wa* の綴りが /wo/ の発音となるもの (*wash* や *swan*)、*ou* の綴りが /u/ の発音となるもの (*touch* や *young*) などがこれにあたります。*Grammar 3* では、*e* の綴りが /ee/ の発音となるもの (*email* や *secret*)、*i* の綴りが /ie/ の発音となるもの (*child*)、*o* の綴りが /oa/ の発音となるもの (*hello*) など登場します。

Grammar 4 では更に、*ear* が /er/ の発音となる *earth*、*gh* が /g/ の発音となる *ghost* や *dinghy* を学習します。*Grammar 5* では、*ch* が /sh/ の発音となる *chef*、更に *sure* が /shor/ の発音となる *sure* を学習します。*Grammar 6* では *ough* が /off/ の発音となる *cough*、/uff/ の発音となる *rough*、/oa/ の発音となる *dough*、/or/

の発音となる *bought* (英)、/oo/ の長母音の発音となる *through*)、/ou/ の発音となる *drought* を学習してきます。



シュワー：例えば *children* という単語の中の *e* の音や *carrot* の *o* の音のように特徴のない弱い母音をシュワーといいます。この音は英語の中で最も登場頻度の高い母音となります。*Grammar 4* で登場し、その後も接頭辞の *-ity* や *-ety* などの単語の中で登場した際に重点的に指導していくこととなります。



接頭辞・接尾辞：*Grammar 2* では、単語に音素を1つ以上付け加えることでその単語の意味が変わるものがあるということを学びます。接頭辞 (*prefix*) は単語の先頭に付けるものを指し、*happy* (嬉しい) に接頭辞の *un* を付けければ逆の意味の *unhappy* (悲しい) になりますし、*day* (日中) に接頭辞の *mid* を付けければ特定の位置を示す *midday* (正午) になります。また接尾辞は単語の末尾に付けるものを指し、*power* (力) に接尾辞の *ful* を付けて *powerful* (強力な) にすることも、*less* を付けて *powerless* (力のない) とすることもできます。接頭辞はそのまま付けければよいのですが、母音から始まる接尾辞 (*-ed*、*-ing*、*-er*、*-est*、*-able* など) を付ける際には綴りのルールがあることがあります。これらのルールは *Grammar* の中で復習していきます。



グラマーの段階で子どもたちが達成すること

グラマーを学習している子どもたちをみていると、その「書く力」にもっともめざましい進歩が見られます。綴りや補助符号の使い方がより正確になり、より豊富な語彙を使いこなし、言語としての英語のしくみを明確に理解するようになります。こういった技能の向上は、書くことだけでなく話すことにおいても、自分自身をより正確に表現できることにつながっていくのです。

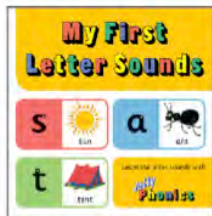


フォニックス教材

読み書きの学習を始めたばかりの子どもたちには、こちらのフォニックス教材が用意されています。教材名の後に * 記号がついたものはご家庭での指導にも向いているものです。グラマー教材の前にこれらフォニックス教材を使いましょう。

My First Letter Sounds * (2歳～) はじめてのレターサウンド *

「文字（綴り）」とその「音を含む単語と絵」の厚紙本です。「文字（綴り）の音」の導入時に。



My Jolly Phonics * (3歳～) 個人向けマイジョリーフォニックスセット *

読むことを始めたばかりの子どもたちが楽しみながら学べる教材をセットにしました。内容は・・・

- Jolly Phonics Activity Books 1-7
- Jolly Phonics DVD
- Jolly Phonics Games CD（個人ユーザー用）
- Jolly Songs
- Jolly Stories
- Jolly Phonics Letter Sound Poster
- 三角鉛筆（赤、黄、青、黒）と消しゴム付き！



Sounds Like Fun DVD * (2歳～) サ운ズライクファン DVD *

カートゥーニトというテレビ番組と提携して制作された全 39 話を DVD に収録しました。ジョリーフォニックスを元に 42 の「文字（綴り）の音」を楽しく効果的に紹介しています。



※ 映像信号方式は PAL です。対応の DVD プレーヤー、またはパソコンでの再生が必要となります。

Jolly Phonics Activity Books 1 - 7 * (3歳～) ジョリーフォニックス アクティビティーブック 1-7 *



42 の「文字（綴り）の音」の 1 つずつに、お話し、文字を書く練習、塗り絵、パズル、シールなど、さまざまなアクティビティーが満載です。



Jolly Phonics Workbooks 1-7 * (4 歳～) ジョリーフォニックスワークブック 1-7 *

「文字（綴り）の音」の学習が後、このワークブックが使用できます。白黒印刷のこのワークブックには文字の認識、筆記体の練習、母音の同音異綴り、ひっかけ単語の指導、より難しいパズルなどが含まれます。

Jolly Stories * ジョリーストーリー *

インキーマウスとその友だちの冒険と一緒に体験しましょう。7 話のお話を通じて 42 の「文字（綴り）の音」を学びます。かわいい絵が満載のこの厚紙本は見開き 40 ページ。各ページに 1～2 つの「文字（綴り）の音」が紹介されています。ページ毎に読み書き練習用の単語集とジョリーフォニックスのアクションが書かれています。大きな文字はエンボス加工で、触感を使った指導にも対応しています。



Jolly Phonics DVD * ジョリーフォニックス DVD *

42 の「文字（綴り）の音」とジョリーフォニックスの 5 つの技能が全て網羅された DVD です。子供用に楽しいおまけのアクティビティー、大人用に「ジョリーフォニックスの使い方」映像、さらに英語を外国語又は第二言語として学ぶ方用に英語の「文字（綴り）の音」の解説も含まれています。

※ 映像信号方式は PAL です。対応の DVD プレーヤー、またはパソコンでの再生が必要となります。

Finger Phonics Books 1-7 * フィンガーフォニックス 1-7 *

42 の「文字（綴り）の音」を学ぶ際に使うお話の本です。7 冊の本は 6 つずつの「文字（綴り）の音」の 7 グループに対応しています。大きな文字がエンボス加工されていますので、文字の形を触感で学べ、また同時にアクションを使って正しい音を学べます。主要教材の一つです。



Jolly Phonics Magnetic Letters * ジョリーフォニックスマグネット *

106 個の小文字のマグネットです。子音は赤、母音は青と色分けされています。2 文字で 1 音となる「ダイグラフ」も含まれています。多感覚の 1 つの「触感」を使用できる教材です。

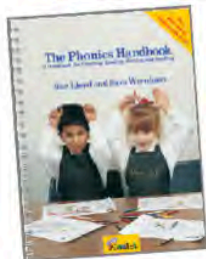


Finger Phonics Big Books 1-7 フィンガーフォニックス・ビッグブック 1-7

教室での指導用の大型本で、内容はフィンガーフォニックスと同じです。ただし、厚紙本ではないため、大きな文字の部分は通常の印刷となっています。

Jolly Songs * ジョリーソングス CD *

42 の「文字（綴り）の音」をお馴染みの曲にのせた CD と本のセットです。ご家庭や小グループレッスンに。



The Phonics Handbook フォニックスハンドブック

Core resource

教室でのシンセティック・フォニックスによる読み書き指導に必要なすべてのリソースが詰まった 1 冊です。コピー可能なさまざまな教材やレッスンプランも含まれています。

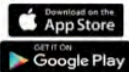
Jolly Phonics Games CD * ジョリーフォニックス ゲーム CD *

インキー・マウスとその友だちが登場するゲームの世界で読み書きを学びましょう。20 個のアクティビティを 3 つの難易度で！個人向けまたは団体向けライセンス版があります。



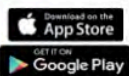
Jolly Phonics Letter Sounds App * ジョリーフォニックス レターサ운ズ アプリ *

ビーとその友だちと一緒に楽しいゲームの世界で英語の 42 の「文字（綴り）の音」を探しに出かけましょう。



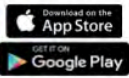
Jolly Phonics Lessons App ジョリーフォニックス レッスン アプリ

42 の「文字（綴り）の音」のレッスンプランはこのアプリで。5 つの基本技能をカバーした計画を提供します。



Jolly Songs App * ジョリーソングス アプリ *

42 の「文字（綴り）の音」の学習時にこどもたちをサポートするアプリです。アクションも含まれています。



Jolly Phonics Word Book ジョリーフォニックス ワードブック

ジョリーフォニックスで学ぶ 42 の「文字（綴り）の音」のグループ、単語中の最初の子音連結、単語中の最後の子音連結、同音異綴り、ひっかけ単語ごとの単語リストです。



Jolly Phonics Pupil & Teacher's Books (4歳～)

ジョリーフォニックス ピューピルブック & ティーチャーズブック

Core resource

ジョリーフォニックスの指導を強力にサポートする教材です。指導者用のティーチャーズブックに沿って進めていくことで、包括的に指導できます。学習者用のピューピル（米語版はステュデント）ブックとあわせて使います。

※ 日本での指導は東京書籍から出版の「はじめてのジョリーフォニックス」シリーズがおすすめです。Jolly Phonics Pupil Book 1 にあたる部分の Teacher's Book と Student Book が日本向けとして出版され、現在好評販売中です。

Jolly Phonics for the Whiteboard 電子黒板用ジョリーフォニックス

Core resource

ジョリーフォニックスで指導するための電子黒板用のソフトです。学校でジョリーフォニックスの指導を行う際に必要となるすべての教材、およびジョリーソングス、ジョリージングル、フラッシュカード、印刷可能なワークシートなども、このソフトの中に含まれています。



Jolly Jingles ジョリージングル



ジョリーソングスとはまた別の、お馴染みの曲にのせた 42 の「文字（綴り）の音」の歌が収録された CD と本のセットです。カナダの子どもたちが歌っています。クラスでご利用ください。

Jolly Phonics Read and See * ジョリーフォニックス リードアンドシー *

習った 42 の「文字（綴り）の音」で発音し、読める単語の本です。Pack 1 が 12 冊、Pack 2 が 12 冊、計 24 のテーマで見開き左ページに単語が書かれ、そのイラストが右ページのフリップを開くと現れる仕掛け本です。





Jolly Phonics Letter Sound Poster *

ジョリーフォニックス 42 音のポスター *

42 の「文字（綴り）の音」の大きなポスターです。アクションに関連するイラストもついています。ご家庭や教室での復習用に。

Jolly Phonics Puppets *

ジョリーフォニックスぬいぐるみ *

ジョリーフォニックスのメインキャラクター（インキー、スネイク、ビー）のぬいぐるみ 3 体セットです。



Jolly Phonics Decodable Readers *

自分で読めるジョリーフォニックスの本 *

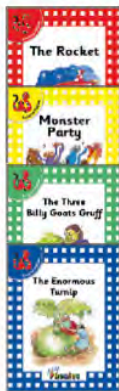
ジョリーフォニックスの学習レベルに合わせて、こどもが自分で読んでいくことができる物語の本です。本の最初にその本で使われる「文字（綴り）の音」と「ひっかけ単語」が記載されていますので、学習の進み具合に応じて使うことができます。

Level 1

Level 2

Level 3

Level 4



4 つに色分けされたレベルごとに「インキーマウスとお友だち」「一般的なフィクション」「ノンフィクション」の 3 種類のシリーズの本が用意されています。それぞれ 6 種類の本で 1 つのセットになっています。



Jolly Phonics Wall Frieze

ジョリーフォニックス掲示用フリーズ

教室での掲示用にこのフリーズを。7 種類のイラスト入りのフリーズ（装飾帯）のセットです。

Jolly Phonics Tricky Wall Flower ジョリーフォニックスひっかけ単語花形掲示

学習したひっかけ単語を教室で掲示しましょう。カラフルな花形のひっかけ単語の掲示物です。



Jolly Phonics Alternative & Alphabet Posters ジョリーフォニックス同音異綴り & アルファベットポスター

同音異綴りのポスター1枚と、アルファベットのポスター1枚のセットです。

Jolly Phonics Tricky Word Hat ジョリーフォニックスひっかけ単語用帽子

ひっかけ単語花形掲示と合わせてご使用いただけるフラシ天の帽子です。単語を帽子にくっつけられるように72個の小さなマジックテープが付いています。



Jolly Phonics Picture Flashcards * ジョリーフォニックスピクチャーフラッシュカード *

片面に「文字（綴り）」と単語が、もう片面にカラフルなイラストと音ボタンが書かれたフラッシュカード60枚セットです。同音異綴りも含まれています。

Jolly Phonics Cards ジョリーフォニックスフラッシュカード

文字（綴り）の音・ブレンディング・母音の同音異綴り・ひっかけ単語のフラッシュカード4セットです。教室で大活躍。



Jolly Phonics Letter Sound Strips ジョリーフォニックス「文字（綴り）の音」シート

教室で各々の子どもたちが手元において文字（綴り）の音を確認します。表に42音、裏に母音の同音異綴りが書かれた30人分のシートです。

Jolly Phonics Starter Kit Extended

ジョリーフォニックス スターターキット（拡張版）



Jolly Phonics Classroom Kit ジョリーフォニックス学級用キット

更に多くのデコダブルブックやリソース CD を含む教室用のセットです。
こちらもケースに収納されています。

The Phonics Handbook
Jolly Phonics DVD
Jolly Phonics Word Book
Finger Phonics Big Books 1-7
Jolly Phonics Letter Sound Strips
Jolly Phonics Cards
JP Alt Spelling & Alphabet Posters
JP Tricky Word Wall Flowers
Jolly Phonics Wall Frieze
Jolly Phonics Puppets
Jolly Phonics Tricky Word Hat
Finger Phonics 1 - 7

教室用のジョリーフォニックスセットです。明るいい色のキャリーケースにこれだけの教材が収納されています。

The Phonics Handbook
Jolly Phonics DVD
Jolly Phonics Wall Frieze
Jolly Phonics Cards
Jolly Phonics Word Book
Finger Phonics Big Books 1-7
Jolly Phonics Letter Sound Strips
JP Alt Spelling & Alphabet Posters
JP Tricky Word Wall Flowers
Jolly Songs
Jolly Phonics Readers Level 1 (18冊)
Jolly Phonics Readers Level 2 (18冊)



Jolly Phonics Resources CD
Jolly Jingles (Big Book と CD)
Jolly Songs (A4 サイズの本と CD)
Read & See Pack 1 (全 12 テーマ)
Read & See Pack 2 (全 12 テーマ)
Jolly Phonics Readers Levels 1-4
更にパワーポイントのプレゼンテーション CD と保護者用ガイド 30 部も含まれます。

Jolly Phonics Extra Personal *

ジョリーフォニックスエクストラ *

"エクストラ（割増・特別）" なサポート機能が付いた教材セットです。トーキングペンというペン型の読み取り器が大活躍！ 当セットに付属の *Letter Sound Book* と 71 枚のフラッシュカード、更に 54 冊の *JP Decodable Readers* にトーキングペンをかざせば、内容を音声でサポート。子どもたちも興味を示すでしょう。



グラマー教材



The Grammar Handbooks 1-6

グラマーハンドブック 1-6

Core resource

ジョリーフォニックスの次に 6 年
間かけて学ぶ文法、綴り、補助符号の指導書です。
各ハンドブックは 36 の文法（補助符号を含む）と
36 の綴り指導から構成され、コピー可のゲームやア
クティビティーも盛り沢山。フォニックス同様グラ
マーでもアクションが大活躍。

Grammar Big Books 1, 2

グラマービッグブック 1, 2

グラマーのステージでの最初の 2 年分にあたる大
型教材です。教室内で使用します。



Grammar Pupil & Teacher's Books 1-6

グラマー ピューピルブック & ティーチャーズブック 1-6

Core resource

グラマーステージの最初の 6 年間で使用する指導者用のティーチャ
ーズブックと学習者用のピューピル（米：ステューデント）ブック
です。カラー本に直接書き込んで使用する教材です。



Jolly Dictionary * ジョリーディクショナリー *

DofE 賞受賞！カラーイラスト満載の辞書です。子どもも使
いやすい単語を重点的に 6000 語以上収録。定義も子ども
が読みやすく、且つ引きつけるようにまとめました。アル
ファベット順に 4 色にわかりやすく分類され、ジョリーフ
ォニックスの基本の音の綴りで発音が記されています。



Grammar Games * グラマー ゲーム CD *

15 種類の楽しく遊べるパソコン (Windows/Mac) 用ゲームソフトの入った CD です。グラマー学習の最初の数年で学ぶ文法、綴り、補助符号を復習できます。個人 (家庭) 向けまたは団体 (学校など) 向けライセンス版があります。



Grammar Workbooks 1-6 * グラマーワークブック 1-6 *

学んだ文法、綴り、補助符号を定着させるための楽しいワークブックです。モノクロ印刷で中へ書き込んで使います。

Grammar Songs * グラマーソングス CD *

学習した文法、綴り、補助符号の定着をしっかりとものにするための馴染みやすい曲にのせた歌の CD と本のセットです。ご家庭や小グループレッスンに。



詳しくはホームページで！

www.jollylearning.co.uk

日本での教材ご購入はこちらの販売店から！

www.jollylearning.co.uk/regions/japan/jolly-stockists/





Jolly Learning Ltd

お問い合わせはこちらまで

代表メール : info@jollylearning.co.uk
ウェブサイト : www.jollylearning.co.uk

イギリス本社 : Tailours House, High Road,
Chigwell, Essex, IG7 6DL, UK
Tel: +44 (0)20 8501 0405
Fax: +44 (0)20 8500 1696

アメリカ 82 Winter Sport Lane,
Williston, VT 05495, USA
Tel: 1-800 488-2665
Fax: (802) 864-7626



Follow us on
Instagram
[@jollylearning](https://www.instagram.com/jollylearning)



Find us on
Facebook at
[Jolly Learning](https://www.facebook.com/jollylearning)



Follow us on
Twitter
[@jollylearning](https://twitter.com/jollylearning)

